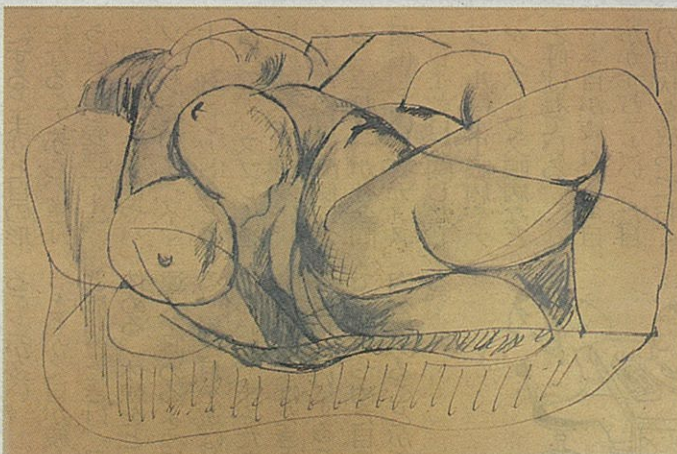


〈名画の扉〉

大川美術館企画展から



「裸婦b」

1947年ころ、インク・紙
27・5センチ×39・0センチ
大川美術館寄託作品

松本竣介（1912〜47年）

ソファに横たわっています。

いる女性でしょうか。大川美術館では、13
こちらを向いているよ 日から始まる企画展
うな、あちらを向いて 「松本竣介―アトリエ
いるような、多視点が の時間」とともに、展
組み合わされた構図 示室内に竣介のアトリ
は、寝返りをうった時 エと同じスペースを設
のしなやかさを思わせ け、当時の様子がうか
ます。しかし何といっ がるようにレイアウ
てもこの裸婦像から感 トする「竣介のアトリ
じられるのは、その量 エ再見プロジェクト」
感、塊感です。 をご覧いただきます。

松本竣介は、こつこ 竣介の好きだった骨太
つとした重みのあるつ なモノたちも展示され
ぼや、古道具の木材の ます。創作の時間のほ
塊感など、骨太なモノ んどを過ごしたアト
を好んでいました。そ リエとともに作品を鑑
うした竣介が好きだっ 賞することで、竣介の
た骨太なモノたちは、 創作の内側に思いをは
アトリエのそこそこに せていただけたら幸い
置かれていたといいま です。

（池田）